



いの 飯野 勝智 さん
NIDO一級建築士事務所、
結いプロジェクト

おくざわ たけじ 奥澤 武治 さん
奥順株式会社、
本場結城紬卸商協同組合
理事長

のぐち じゅんいち 野口 純一 さん
結城商工会議所、
株式会社TMO結城

いしじま さちえ 石嶋 佐知江 さん
飲食業、
癒ごこち家arare



結城紬ミュージアムつむぎの館



活動されてきて発見できた結城の魅力、
また見えてきた課題は何でしょうか

石嶋— お店を始めて感じたのが、市内のお客さんは結城愛の強い方が多いですね。特に北側に住んでいる方のほうが、結城について熱く語られますね。

課題としては南側ばかりが店舗なども建ち盛り上がっている感があります。私も住まいが南側なんです、こっちにお店を開くまでは、北側は「夏祭り」というイメージしか思いつかなかったです。結い市なども、聞いたことはありましたが、内容はあまりわかっていなかったです。きつと何らかの形でアピールはしているんでしょうけど、あまり向こう側にはこう…、届いていなかったのかなと。

野口— 温度差があるんですね。

石嶋— そうなんです。私も北側に来てこんなことやっているんだということが多くて、もうちょつとアピール方法があるのかなと思っています。

野口— 結城の魅力は北部市街地だったりと、歴史と文化が息づくまちと、あとはなんといってもここに暮らしている人たちだと思ふんです。自分も結いプロジェクトとか、まちを舞台にさまざまな活動をさせてもらい、最初はどうしても、付かず離れずの距離を取られてしまふんですが、きちんと自分たちの思いや、結城をどうしたいかっていうことを見ていただけると、次からは一緒にお手伝い

してくれるということがあります。

やはりまちという受け皿もありますし、そこに住んでいる人たちというところで受け皿が広い寛大に受け止めていただけているところ、これは、非常にまちの財産だなと。そういった点では、結城は行政と民間がうまく連携がとれていると思います。これまでの様な一緒の方向をみて協力しているっていうのは、外から見える内側にある結城の強みだと思うので、この様なところを大事にしていきたいし、魅力としてしっかり伝えていきたいなと。

課題としては、結城に関わり合う人たちが北部市街地をどういうまちにしたいのか統一できていないのかなと思っています。

例えば観光でいくのか、暮らしやすいまちにするのか、商業で儲けられるまちにするのか、その辺のバランスというかどのようになりたいのか、バラバラというか足並みがそろっていない。

北部市街地は非常にたくさんのポテンシャルがあるまちなので、今一度、しっかりとした方向性を行政・民間・市民の人たちと統一して、この機会をきっかけに進んでいけたらと思います。

奥澤— 結城の魅力というのは、先人たちから古い北のまち、城下町を大切にしないといけないっていう思いを持っていて、先ほど野口さんがいったように、人に優しく心が広い人が多いことかなと思います。今度はそれを活かさなくちゃいけない。

見えてきた課題は、結城のすごさや歴史と文化を市民は特別に思っていないし意識が薄いんですね。何で薄いかと考えたら、結城

思っています。

奥澤— 私は観光のまちにしたいとは少しも思ったことはないです。年寄りがゆつたり楽しく暮らせるまちとか。それだったら今すぐにでもできます。

今いる人、これからお年寄りになる人が結城で住みたいなっていうくらいゆつたりしたまち、そういう感覚にしたほうがいいと思います。

野口— たしかにゆつたりという部分で、創業する人のキャラクターっていうのが統一されている部分があります。ただ単に観光地で人がいっぱい来て回転率を上げて商売したいのであれば結城を選ぶ人はいないと思います。あえて結城を選ぶということは、やはり石嶋さんもそうだし儲けを出すことだけではなく、自分のやりたいこと、自分らしい働き方っていうのを見出してやっている人が多いので、特に北部市街地をPRしてそういう人材を誘致してくれば、個性的な面白いまちになっていくのではないかと思います。それが市民の人たちもわかってくれれば、結城の北というまちの特徴っていうのも見えてくるのかなって思うので。あんまり派手に売り込まずできたらいいなって思いますね。

市長— 皆さんのお話を聴くと、非常に結城の古いまちを考えて色んなことを進めてもらっていますね。私も大変うれしく、安堵いたします。

皆さんが頑張ってくれているんですけど、シャッターがおりているところも本当に多く